

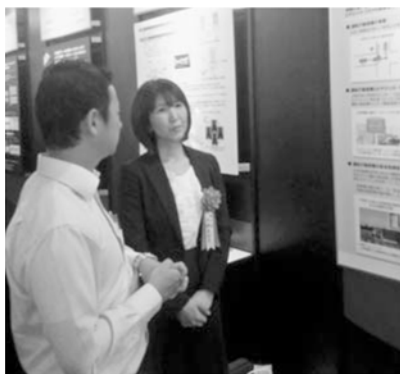
自動車予防安全研究

少し古い言い方をすると、「良妻賢母」を指して家政学部に入ったつもりだった。それなのに、なぜか20年以上もメーカーの研究所で働いている。大学の卒論テーマで住居の睡眠環境について研究した。その縁で、日産自動車に入社し、配属されたのが予防安全研究チーム。以来、交通事故低減に貢献したいという目標を持ち続けている。

凛としていきる

理系女性の挑戦

交通事故低減に貢献を



受賞論文のパネル説明（自技会展会場にて）

点が当時は新しかった。香料の調達、実験手法、評価方法、何もかも初めてつくし。でもチームで作業できるの

で心強い。仮説を立てて実験し、新しい現象の結果に触れる瞬間は楽しい。このときの研究論文で女性初の自動車

技術賞を受賞した。今年、2度目の自動車技術賞論文賞を頂いた。テーマは「ドライバーのリスク定量化手法の研究」。この論文は、「安全運転とはどのような運転か？」

調だったように思うかもしれないが、決してそうではない。機械もプログラミングも苦手で、理系女性とは言い難い。会社の選択を間違えたと思ったこともある。だから、独自の領域で貢献するしかないと考えた。車を操作するのは人間なので、人間のことをよく理解

して技術開発を行う必要がある。事故分析、運転行動解析などが実はとても重要な。得られた知見を発表し論文を書いた。学会発表は社外のネットワークを広げるのに有効である。発表を機に面識ができれば、情報交換、交渉がしやすくなる。自動車工業会の分科会にも参加し、事故防止のための研究提案を積極的に行うようにしている。



平松 真知子

△▽ △ 日産自動車 総合研究所モビリティサービス研究所  
△▽ △ 企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）  
△▽ △ 育ち、次女は理系学部を志している。良妻賢母にはなれなかったが後悔はない。